

## 令和 6 年 3 月 22 日 定例記者会見(報告)

1 日 時 令和 6 年 3 月 22 日(金)15 時 00 分～

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関> 山形新聞、読売新聞、河北新報、米沢日報、SAY、YBC、YTS

<市> 市長、秘書広報課長

4 記者クラブからの質問事項

(1)米沢市観光推進機構にかかる調査等の進捗について

(2)4月より山交バス路線の変更、市民バス学園都市線の運行開始と、バス路線変更に伴う南原地区・三沢地区での乗合タクシー導入時期を含む今後の公共交通見直しの進め方について

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和 5 年度 3 月 2 回目の定例記者会見を開催いたします。あらかじめ頂戴しております質問に対しまして市長がお答えします。進行は幹事社にお願いします。市長お願いいたします。

○市長

最初に 1 つ目の質問にお答えします。外部調査依頼先の日本公認会計士協会山形県会からご推薦をいただいた山形市在住の公認会計士の方に調査をお願いし、3 月 11 日に調査結果の報告を受けました。内容はプラットヨネザワ(株)に委託した業務委託料の令和 4 年度分及び 5 年度分の総額約 7000 万円についてです。プラットヨネザワ(株)の関係帳簿、外注先からの契約書や請求書、領収書等の帳簿を確認した結果、これらの資料と支出された金額が一致しており、問題がないということでした。私としては米沢市長そして米沢観光推進機構の会長としてほっとしているところです。そして今後の対応について本市の代表監査委員と米沢観光推進機構の監査を務めている加藤公認会計士からご意見をいただいたことを踏まえて、次の事を実施する予定です。

まず、第一にプラットヨネザワ(株)が実施している 13 の事業について、具体的な目標と達成状況の報告を至急受けたいと思っております。この報告については 2 年ぶりに実施するということですが、半年に一回報告を受ける体制に変えるべきであるという指摘がありましたので、今後はそのようにしたいと思えます。プラットヨネザワ(株)は、米

沢に訪れた観光客がどういう所に泊まって、どういう所を訪ねて、どういうお金の使い方をしているのかというデータベースを構築して、そのうえで観光戦略を作ることが目標でありましたので、それらのことについて報告を受けたいと思っております。

第二に、体制を見直します。委託先の企業の方が発注元である米沢観光推進機構の役員を兼務するというのは適当ではないということで、幹事から外れてもらうこと。また、現在、本市の観光課が事務局をしておりますが、この事務局にも委託先の企業の方が入っておりますので、この事務局からも外れてもらうということ。この2点の見直しをさせていただこうと思います。また、議会でのプラットヨネザワ(株)の民法上の双方代理契約の追認及び体制を見直すための総会を開きたいと思っております。今後は透明性の確保に力を注ぎ、より成果の出るようなチェック体制をとりたいと思いません。

次に2つ目の質問についてお答えします。市民バスについて、4月1日から循環南回りバス線を学園都市線に名称を変えます。学生の講義時間に合わせたダイヤ及び商業エリアや病院へのアクセスに配慮したルートに変更します。また、加えて市民バス万世線に八幡原中核工業団地を経由するルートを追加いたしました。これは自家用車を運転して、通勤することが難しい障がいを持った方々の交通手段を確保してほしいと工業団地の企業の皆さんから強い要望を受けていたこと、また外国人労働者の方々も含めまして八幡原への通勤手段を確保するということでの新ルートを作りました。同様に山交バス路線「白布温泉線」と「小野川温泉線」を統合するため路線バスの路線から外れる南原地区と南部地区の一部、三沢の築沢地区において同じく4月1日から乗り合いタクシーの実証運行を行います。これを皮切りに他の地区も含めて市内全域への交通手段の確保、具体的にはデマンド路線の拡充も進めてまいりたいと思えます。今後の考え方として原則バス路線のあるエリアにはデマンドタクシーの重複はしないというのがこれまでの基本的な考え方でありましたので、新しくデマンドタクシーを導入する場合は既存のバス路線を廃止、あるいはエリアの住み分けを行って参ります。とはいうもののこれは一律で考えるのではなく地域の事情や交通事業者の方々との協議を行いながら進めていきたいと思っております。一方、市内循環バスが主体となりますが、バス停から遠い空白地も存在しております。現地の状況を調査しながらバス路線の見直しも含めて考えていかなければならないと思えます。現在、市内のタクシー会社の車両が日常的にどういう動きをしているのか調査している最中でありました。いずれにしても新年度になりましたらできるだけ早い時期に私も加わりタクシー会社の方々との検討会を発足させたいと思っております。タクシーの運転手不足といった課題も抱えていますし、どのようにしたらデマンドタクシーのエリアを広げる事が出来るのか、システム作りも踏まえて早急に検討会を設置したいと思っております。皆様から頂いている質問項目は以上でございます。

○記者

では、1 番目の項目について、いつごろまで何をするという具体的な今後の予定をお聞かせください。

○市長

できれば年度内に米沢観光推進機構の総会を開いて、これまでの体制の見直し案を決定したいと思っています。事業の透明性の確保し、また、これまでの成果と今後の計画に応じて予算の配分を決めていくということ、そして少なくとも半年に一回はきちんと報告していきたいと思います。

○記者

新年度の予算について、これまでの成果を踏まえて配分を決めるということですが、例年どのようなスケジュールで予算配分を決めていたのでしょうか。

○市長

全体の枠の中で、その都度執行していたと思います。何か月に 1 回ずつ執行されますので、どの事業にどれだけの予算を執行するかは今後きちんと報告を受けることになっております。

○記者

13 の事業についてもでしょうか。

○市長

はい。できれば年度初めに報告できるのではないかと思います。

○記者

3 月 12 日というのは報告を受けた日でしょうか。

○市長

私に報告を頂いた日ですので、実際の報告から 1~2 日くらい遅いかもかもしれません。

○記者

外部調査を求める際、市長として透明性を高めるためとおっしゃっていましたが、領収書などお金の流れの部分について透明性は確認されたという認識でしょうか。

○市長

一定の透明性は確認されたと思います。人件費の内訳について公開を求めるべきだと代表監査委員から指摘を受けておりますので、やはり開示を求めなければならぬかと思います。

○記者

これまで既存の戦略会議というものはあると思いますが、プラットヨネザワ(株)さんを体制から外したうえで報告を求めるということでしょうか。

○市長

幹事会の場で委託業者であるプラットヨネザワ(株)さんが成果を報告するということが大事な事だと思いますし、それが一番正しいのかなと思います。

○記者

幹事会の構成メンバーが判断をするということでしょうか。

○市長

そうです。

○記者

報告を受けて、成果があったのかを判断するのはどういったメンバーになるのでしょうか。

○市長

幹事会のメンバーです。

○記者

幹事会はどいったメンバーで構成されていますか。

○市長

商工会議所の専務、観光協会の会長、本市の産業部長など米沢観光推進機構に関わっている方々で判断するということになります。

○記者

DMO が評価することに関して、過去に携わっていた方々が納得されるでしょうか。

○市長

例えば家族連れの観光客が、どういう旅館に泊まって、それはどんな季節で、どういうお金の使い方をしたという観光客の流れのデータベースをつくるというのが主に DMO の役割だとお聞きしています。まずはデータを集めて、結果、人の流れとかお金の使い方がわかるから戦略が打てます。しかしそれが今までなかったため、観光戦略ができないという話だった。そこでプラットヨネザワ(株)さん中心にそういうデータベースを作るといったのでお願いしたわけです。その 2 年間の成果はどうだったのかということになります。もちろんこれまで様々なイベントを DMO の事業として実施しているのも事実ですが、大事な事はデータベースをつくるという話でした。道の駅にカメラを置いたりして人の動きの調査もされているようなので、そのあたりの結果がどうなっているのかを知りたいということなんです。

○記者

今回が初めての報告ということでしたが、そもそもどんな内容の報告をもらうことになるのでしょうか。

○市長

いわゆる KPI のような、数値的な目標値に基づいた報告を受けてこなかった。毎年度の予算の措置ですから最低でも 1 年には 1 回とか、できれば半年に一回くらいの報告というのはやっぱり受けるべきだったと思いますし、それが今まできちんとできていなかったという意味ではこれまでの体制について反省すべき点があったと思います。

○記者

今回 5 年という長期的な事業ですが、他にもこういった報告をもらってないものがあるのか、また、あるのであれば改善する予定は現時点でありますか。

○市長

観光以外ですか。

○記者

はい。観光以外です。

○市長

5 年間実施しないと成果が出ない事業もあるとは思いますが、しかし、予算というのは単年でありますから、本来はあらゆる事業について 1 年間での成果を調査するようにしなければならないと思います。もちろん行政でやる仕事全てが成果が現れなければならないというのは誤解で、社会福祉であるとか福祉関連の事業であるとか、教育環境のものであるとか目に見える成果が 1 年で現れないものもあります。しかし経済、産業関係はある程度その事業での成果をチェックする発想は私は大事だと思いますので、PDCA の行政レビューは大事な事だと思います。今回の事を一つの教訓にして、今後調査すべきものが出てくるかもしれません。

○記者

3 月末の総会は通常総会でしょうか。臨時総会でしょうか。

○市長

臨時で急遽実施になると思います。

○記者

ありがとうございます。

○記者

今回、長い間報告がなく職員も兼任していた状態がずっと続いていましたが、それについての責任は今後どうしていくのでしょうか。

○市長

好ましい状況ではなかったと思います。お金の使い方として、大きな不正があったわけではないということでしたので、結果として良かったと思っております。仮に不正な使われ方をしていたのであれば、やはり明らかに体制の問題だったと思いますので、発注者と委託者が同じ人物で、かつ事務局にも委託者がいるというのはあまりないケースだと思われるので、これは早急に直すべきだと思います。私が就任してから早い時点で指摘を受けており、それから 2 か月を要した理由は数字的な調査も必要だったため時間がかかりましたが、速やかに体制を直さないといけないと思います。

○記者

市民の皆さんが見えないことが心配の種だと思います。情報開示という意味で 3 月 11 日の会計士協会の報告書をマスコミとかに流すということはあるですか。

- 市長  
報告書は公表しないということになっています。
- 記者  
内容そのものを公表しないという意味でしょうか。
- 市長  
そういうことでありましたので内容は公表しませんでした。
- 記者  
臨時総会の取材は可能でしょうか。
- 市長  
関係部署と相談します。
- 記者  
次に、2番目の項目の公共交通についてですが、4月1日から南原・三沢地区で乗り合いを始めるということでしたが、周知はどのようになっていますか。
- 秘書広報課長  
3月1日号の広報の折込で配付しており、HPでもお知らせしています。
- 記者  
便数なども入っていたでしょうか。チラシの小さいところに所に南原・三沢地区の皆様に向けて記載がありますが4月から実施されることについて認知されているのでしょうか。
- 市長  
全市民的に向けての周知については確認させてください。地域の方には地区コミュニティセンターから説明させていただきました。
- 記者  
今、便数について分かればといいと思い確認させていただいているんですが。
- 市長  
デマンドタクシーなので、便数というよりは事前に電話をしてそれに応じて使ってもらおうということなので1日何便ということではなく時間の制限があるはずです。
- 記者  
米沢の乗り合いタクシーは、例えば広幡地区では1日5便あります。朝7:30～8:30～9:30～10:30～13:30～六郷地区は3便あります。これはHPに出ています。小野川地区も6便です。南原地区はどのくらいなのかなど。HPには出ていないので、市全体でバランスが取れているのかどうか。
- 市長  
便数については、地域の方々のアンケートなどをとったりして設定をしているはずですが、4月から試験的に実施し、その状況を見て便数を変更していくというスタートとなりますので、市全体でバランスが取れているのかということについては必ずしもそ

うだとは思いません。ただし、私としてはできるだけ早くエリアを拡大することは選挙公約にも掲げているところではありますし、今後、順次できるところからエリアを広げてまいりたいと思います。

○記者

選挙公約に公共交通を掲げていらっしゃったので、詳細をお聞きしているところです。米沢小松線が無くなったことで六郷広幡対象だけど塩井の一部は対象外だとか公平感で考えるとまだかなと思います。全域をカバーするためにどういうスパンでどういふものを目指していくのでしょうか。

○市長

バスやデマンドタクシーの組み合わせで移動に不便のない米沢を作りたいということです。現に順次進めています。ただ一気にエリアを広げようとしても対応できるのかという課題もありますので、タクシー会社の方々と改めて検討会を開かなければならないと申し上げました。担当課の地域振興課でも研究を進めているところです。

○記者

その他ということでお聞きしたいのですが、先日、アメニツーリズム事業の発表がありました。期待効果というものを市長の口からお聞きしたいのですが。

○市長

「好きでも嫌いなあまのじゃく」は米沢を舞台にした映画で間もなく公開されます。大変リアルな映像で米沢の街並みを描いていただいていると聞いております。大変期待をしているところです。ネットフリックスでも配信されると聞いておりますから、多くの世界の人に見てもらって、交流人口の拡大にぜひ繋がりたいと思います。広報よねざわ4月号の表紙もそのアニメーションのシーンで飾るようなので一生懸命宣伝したいと思います。

○記者

まだ発表されたばかりの段階だと思いますが、今後の展開について聞かせいただけますか。

○市長

私としては広報の表紙を飾って、中年世代にも認知してもらえるように頑張りたいと思います。

○記者

米坂線について質問です。来週、JRに県知事と行くということと、沿線自治体とJR新潟支社との会合があると思いますが、JR に対して米沢市としての主張を改めてお聞きします。

○市長

県知事と共にJR 東日本と国土交通省に行くため、月曜日に上京する予定です。米沢市としては米沢駅がスタート地点なので始発エリアとして市民はもちろん、特に学

生にとって米坂線は非常に重要だということ。また、鉄道を使ったまちづくりに向けて市長としてぜひ取り組んでいきたいという思いを強く JR 東日本に訴えていきたいとします。国交省も同様です。また、関川村で開かれる会合についても同様に重要性を訴えていきたいとします。

○記者

市長が考える誘客というものは何をもってできるものだと考えますか。

○市長

1 つは中高一貫高校を作ろうということを以前から申し上げております。米沢の高校は長井や飯豊、小国の学生が通にくい立地になっているという状況なので、中高一貫高校は置賜一円から通える学校にすべきだと思っています。具体的に言えば駅から近い所にとらうかと思っています。1 つの例として駅から通いやすいようにバスを使うなど、また、学生以外の運転免許を持っていない世代に多く使ってもらうことも考えなければならないと思います。

○記者

今話を具体化して市長が中心となって、いろんところで発信していただきたいです。もう 1 つ質問ですが、副市長人事をもう少し早くできないものか改めてお聞きたいのですが。

○市長

副市長人事については鋭意検討中であります。

○記者

もちろん不測の事態が起こった時を想定した話をしたくはないのですが、副市長の職務代理は必要なものだと思います。特別職として各自自治体にあるわけですし、副市長を二人置いているところもあります。私は急ぐべきだと思っています。

○市長

急がないとは言っておらず良い人材を、ということです。ご指摘の不測の事態は常に考えております。万が一のことがあった場合の職務代理者を決めております。第一は総務部長、総務部長に何かあった場合は企画調整部長ということで、この二人であれば十二分にその不測の事態の職務代理者としての能力も知見も備えていらっしゃるの、不測の事態に対応できないとは思いません。この二人で十分だと考えています。

○記者

米坂線についてですが、飯豊町長から費用負担についての話がありましたが、そのことについて現時点ではどのようなスタンスをお持ちでしょうか。

○市長

米沢市として費用負担に限定するべきではないと考えております。基本的には大きな災害によって起きた事態ですので、激甚災害が適用されるべきでありますし、原状



復帰をする財政的な負担は一義的であると考えていますので、我々としては国が責任を持ってやるべきだと思っております。民間事業者も一定の責任として費用負担すべきだという考えに変わりはありません。飯豊町長のお気持ちやご発言は承りますが、我々地方自治体としては、費用負担は国が主導してやるべき話だと思っております。

○記者

最近の一部報道で、JR 九州も同じく豪雨災害があつて、熊本県が決断をして、国と県が9割以上負担するという報道がありました。米坂線の状況としては同じく被災したことになりますが、この状況をどのように見ていらっしゃいますか。

○市長

この件は一部報道で知っているものの、詳しい内情は分からないのでコメントできないというのが第一点です。また、全体の枠組みをどうするかについては本件の監督は山形県知事と新潟県知事でありますから、米沢市長の身分を超えて発言できないと思っております。

○秘書広報課長

以上を持ちまして、令和5年度3月2回目の記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

なお、先ほどご質問がございました南原・三沢地区のデマンドタクシーについて、地元の方々との協議の上で決めた内容で、チラシを配布し周知しているとのことです。参考までにそのチラシをお配りしたいと思います。